

北西憲二先生略歴

略歴

- 1970年 東京慈恵会医科大学卒業
- 1979年 東京慈恵会医科大学第三病院精神神経科科長（森田療法室に勤務）、
- 1989年 東京慈恵会医科大学 精神医学教室助教授
- 1995年 成増厚生病院・副院長
- 1999年－現在 北西クリニック・森田療法研究所開設（精神療法専門クリニック）
外来森田療法に基づく個人精神療法、家族療法を行う
- 2001年4月－2011年3月 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 教授
- 2002年4月－2004年3月 大学院人間社会研究科社会福祉学専攻主任
- 2007年4月－2009年3月 社会福祉学科学科長

賞罰

- 1998年 第9回森田正馬賞受賞（日本森田療法学会賞）

専門資格

精神保健指定医、日本精神神経学会認定精神科専門医、日本森田療法学会認定医、
日本集団精神療法学会認定スーパーバイザー

学会活動

森田療法学会理事長（2004年－2010年）、日本集団精神療法学会理事長（2002年－2004年）心身医学会評議員（2010年まで）、思春期青年期精神医学会世話人（2010年まで）、東アジア文化精神医学会事務局長（1987年－現在まで）

所属学会

日本精神神経学会、日本森田療法学会、日本集団療法学会、東アジア文化精神医学会、日本病跡学会、日本精神医学史学会、思春期青年期精神医学会、日本社会精神医学会、多文化間精神医学会など

業績（2001年4月-2011年3月まで／日本女子大学在任期間中のもの）

<著書>

- 「親子療法 引きこもりを救う」、講談社健康ライブラリー、2001年9月
- 「森田療法で読むパニック障害—その理解と治し方」（北西憲二編）白揚社、2003年8月
- 「森田正馬—神経質ノ本態及療法（解説）」「精神科臨床のための必読100文献」（分担）（中安信夫編集代表）星和書店、2003年5月
- 「Philosophical Background of Morita Therapy. Its Application to Therapy. In Asian Culture and Psychotherapy: Implications for East and West」（分担）（Edit. Wen-Shing Tseng, Suk Choo Chang, Masahisa Nishizono）University of Hawaii Press、2005年5月
- 「森田療法で読むうつ その理解と治し方」（共著編）、白揚社、2005年5月
- 「森田療法」（共著編）ミネルヴァ書房、2005年11月
- 「中年期うつと森田療法」講談社、2006年6月
- 「森田療法で読む社会不安障害と引きこもり」（共著編）白揚社、2007年3月
- 「森田療法のすべてがわかる本」講談社健康ライブラリー、2007年9月
- 「森田療法と精神分析的な精神療法」（共編著）誠信書房、2007年10月
- 「森田療法—感情と欲望の理解とその扱い」「精神療法の実際」（分担）、中山書店、2009年7月
- 「Buddhism and Psychotherapy in Japan. In Religion and Psychiatry.」（分担）[Edit. P. J. Verhagen, H.M. van Praag, J.J. López-Ibor Jr., J.L.Cox, D.Moussaoui.] Wiley-Blackwell、2010年

<論文>

- 「難治性うつ病と森田療法—精神療法を求めるうつ病者の精神病理と治療」、*「日本森田療法学会誌」*、12巻、第1号、2001年4月
- 「最初に精神療法が著効した難治性うつ病の予後について」、*「こころの臨床アラカルト」*、第20巻増刊号、星和書店、2001年9月
- 「我執から固有の自己へ—森田療法の自然論から」、*「現代思想」*、30巻、第4号、青土社、2002年3月
- 「自己愛の病理と生の欲望」、*「日本森田療法学会誌」*、13巻、第1号、2002年4月
- 「森田療法と私」、*「日本森田療法学会誌」*、13巻、第1号、2002年4月
- 「Diagnostic consideration of Morita Shinkeishitsu and DSM-III-R」、*「Psychiatry and Clinical Neurosciences」*、Vol 56、2002年5月（共著）
- 「The neurotic versus delusional subtypes of Taijin-kyofu-sho: Their DSM diagnosis」、*「Psychiatry and Clinical Neurosciences」*、Vol 56、2002年5月（共著）
- 「文化と森田療法」、*「こころと文化」*、1巻、第2号、2002年9月
- 「集団精神療法の基礎を考える」「*「日本集団精神療法学会誌」*、第18巻、2号、2003年3月
- 「知の体系としての森田療法・Ⅰ—序論・森田の病跡との関連から—」「*「精神療法」*第29巻5号、2003年10月
- 「知の体系としての森田療法・Ⅱ—認知療法との比較から—」「*「精神療法」*第29巻6号、2003年12月

「知の体系としての森田療法・Ⅲ—不問と「抱える」こと、「あきらめる」こと—」 「精神療法」 第30巻1号、2004年2月

「東洋的人間学と森田療法」 「理想」 第672号、2004年2月

「回復の人間学—喪失と生成のダイナミズムから—」 「社会福祉」 44号、2004年3月

「知の体系としての森田療法・Ⅴ—回復という視点から—」 「精神療法」、30巻、第3号、2004年6月

「日本文化における苦悩の理解とその救済」 「日本文化研究」 第6号、2005年7月

「精神療法と回復」 「臨床精神医学」 第34巻第12号、2005年12月

「不安障害の薬物療法の限界と精神療法の役割」 「臨床精神薬理」 第9巻第9号、2006年9月

「Globalizationと森田療法」 「精神科」 第9巻第9号、2006年10月

「近代日本における癒しの系譜と森田療法・内観療法」 「私学研修」 第167号、2006年12月

「うつ病の集団精神療法の理論的枠組み」 「日本集団精神療学会誌」 第23巻第1号、2007年8月

「パーソナリティ障害と森田療法」 「アディクションと家族」 第24巻第2号、2007年8月

「森田療法における回復過程の研究—がんという病いの体験の関連から—」 「日本森田療法学会誌」 第18巻第2号、2007年10月

「森田療法の新たな展開—入院、外来から職場のメンタルヘルスへ—」 「産業精神保健」 第16巻 2号、2008年、6月

「森田療法の過去・現在・未来—森田療法の源流から考える—」 「慈恵医大誌」 第123巻 2号、2008年3月

「創始90周年を迎えた森田療法」 「臨床精神医学」 第38巻 3号、2009年3月

「がん患者に対する森田療法に基づくグループ・ワーク」 「集団精神療法」 第25巻 2号、2009年2月（共著）

「日本語と精神療法—精神療法の役割—」 「精神科」 第15巻 2号、2009年8月

「パーソナリティ障害と森田療法」 「日本精神科病院協会雑誌」 第28巻7号、2009年7月

「慢性うつ病への外来森田療法Ⅰ—双極Ⅱ型障害—」 「精神療法」、第36巻 2号、2010年4月

「慢性うつ病の外来森田療法Ⅱ—神経症性うつ病—」 「精神療法」 第36巻 3号、2010年6月

「Historical View of Geriatric Psychiatric Care in Japan Related with Aging and Thanatology」 「International Medical Journal」 Vol.17, No1, 2010, September.

